

令和4年

第13回彦根市子ども議会会議録

11月  
(11月12日)

彦根市議会



## 彦根市子ども議会会議録総目次

11月12日（土）

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	1
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名（1番 古川ほなみさん（稲枝東小学校）、2番 宮川孝太さん（城東小学校）、3番 桐畑凌斗さん（城北小学校）、4番 乾礼佳さん（旭森小学校）、5番 江畑博翔さん（城陽小学校））	3
会期の決定	3
彦根市政について（一般質問）	3
1番 古川ほなみさん（稲枝東小学校） 質問	4
彦根市に観光スポットを増やして、み力的にしたい	4
安藤副市長 答弁	4
6番 大西希実さん（佐和山小学校） 質問	5
彦根市立図書館の利用者を増やすために	5
広瀬教育部長 答弁	5
9番 吉川結菜さん（亀山小学校） 質問	6
季節に合わせた歩道整備について	6
藤原都市建設部長 答弁	6
12番 廣瀬葵さん（城南小学校） 質問	7
遊具を増やすことに関することの提案	7
久保歴史まちづくり部長 答弁	8
15番 成宮虹来さん（亀山小学校） 質問	8
みんなが行きやすい自習室を亀山学区に	8
多湖子ども未来部長 答弁	9
18番 盛岡環奈さん（若葉小学校） 質問	10
彦根市全体に花が咲く木を植えて明るい市にする	10
安藤副市長 答弁	10

<b>19番 大森結芽さん（城南小学校）</b>	<b>質問</b>	11
子ども選挙についての提案		11
牛澤選挙管理委員会事務局長	<b>答弁</b>	11
<b>22番 黒木優衣さん（稲枝北小学校）</b>	<b>質問</b>	12
みんなが幸せになれるように		12
西嶋教育長	<b>答弁</b>	13
<b>2番 宮川孝太さん（城東小学校）</b>	<b>質問</b>	15
またいきたい！と思える図書館づくり		15
広瀬教育部長	<b>答弁</b>	15
<b>5番 江畑博翔さん（城陽小学校）</b>	<b>質問</b>	16
彦根の自然体験について		16
中村産業部長	<b>答弁</b>	16
<b>8番 上田英祥さん（稲枝西小学校）</b>	<b>質問</b>	17
教科書の電子化について		17
西嶋教育長	<b>答弁</b>	18
<b>11番 右川航大さん（鳥居本小学校）</b>	<b>質問</b>	18
彦根オープンセットを体験型施設として活用することについて		18
安藤副市長	<b>答弁</b>	19
<b>14番 巴佐以子さん（城陽小学校）</b>	<b>質問</b>	19
安全、安心な通学路にするために		19
広瀬教育部長	<b>答弁</b>	20
<b>17番 本庄宏敏さん（金城小学校）</b>	<b>質問</b>	21
大雪に負けない取り組みを		21
安藤副市長	<b>答弁</b>	21
<b>20番 藤原雄蔵さん（平田小学校）</b>	<b>質問</b>	22
公園の遊具を充実させてほしい		22
久保歴史まちづくり部長	<b>答弁</b>	22
<b>23番 角田果巴さん（金城小学校）</b>	<b>質問</b>	23
小学生と大学生がふれ合う機会を設ける		23
疋田企画振興部長	<b>答弁</b>	24
<b>3番 桐畑凌斗さん（城北小学校）</b>	<b>質問</b>	25
公園をみんなが安心して、楽しめる所にしてほしい		25
久保歴史まちづくり部長	<b>答弁</b>	26
<b>4番 乾礼佳さん（旭森小学校）</b>	<b>質問</b>	26
自転車専用道路の整備について		26
藤原都市建設部長	<b>答弁</b>	27

<b>7番 野崎輝香さん（高宮小学校）</b>	<b>質問</b>	28
通院医りょう費の助成		28
安藤副市長	<b>答弁</b>	29
<b>10番 藤田淳暉さん（城西小学校）</b>	<b>質問</b>	30
学習者用端末の導入による学習機の最善化利用について		30
広瀬教育部長	<b>答弁</b>	30
<b>13番 中西温大さん（城北小学校）</b>	<b>質問</b>	31
給食費の無償化をできるだけ早く実現してほしい		31
西嶋教育長	<b>答弁</b>	31
<b>16番 寺田蒼さん（城西小学校）</b>	<b>質問</b>	32
彦根をもっといい観光地にするために		32
安藤副市長	<b>答弁</b>	32
<b>21番 小林怜未さん（河瀬小学校）</b>	<b>質問</b>	33
細い道等にも外灯やカーブミラーを増やしてほしい		33
藤原都市建設部長	<b>答弁</b>	34
閉会		35



令和 4 年 11 月 12 日

第13回彦根市子ども議会会議録

**【 第 1 日 】**





# 第13回彦根市子ども議会会議録

令和4年11月12日（土曜日）

---

## 議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について

---

## 本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について

---

## 会議に出席した議員（23名）

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1番 古川 ほなみ さん（稲枝東小学校） | 13番 中西 温 大 さん（城北小学校） |
| 2番 宮川 孝太 さん（城東小学校）   | 14番 巴 佐以子 さん（城陽小学校）  |
| 3番 桐畑 凌斗 さん（城北小学校）   | 15番 成宮 虹来 さん（亀山小学校）  |
| 4番 乾 礼佳 さん（旭森小学校）    | 16番 寺田 蒼 さん（城西小学校）   |
| 5番 江畑 博翔 さん（城陽小学校）   | 17番 本庄 宏敏 さん（金城小学校）  |
| 6番 大西 希実 さん（佐和山小学校）  | 18番 盛岡 環奈 さん（若葉小学校）  |
| 7番 野崎 輝香 さん（高宮小学校）   | 19番 大森 結芽 さん（城南小学校）  |
| 8番 上田 英祥 さん（稲枝西小学校）  | 20番 藤原 雄蔵 さん（平田小学校）  |
| 9番 吉川 結菜 さん（亀山小学校）   | 21番 小林 怜未 さん（河瀬小学校）  |
| 10番 藤田 淳暉 さん（城西小学校）  | 22番 黒木 優衣 さん（稲枝北小学校） |
| 11番 右川 航大 さん（鳥居本小学校） | 23番 角田 果巴 さん（金城小学校）  |
| 12番 廣瀬 葵 さん（城南小学校）   |                      |

---

## 会議に欠席した議員（なし）

---

## 議場に出席した事務局職員

- 事務局 長 杉本 弘之
- 事務局 次長 若林 善樹
- 書 記 内田 亮

## 会議に出席した説明員

副市長	安藤博さん	産業部長	中村武浩さん
企画振興部長	疋田元伯さん	都市建設部長	藤原弘さん
総務部長併選挙管理委員会事務局長	牛澤淳さん	歴史まちづくり部長	久保達彦さん
市民環境部長	北村典彦さん	教育長	西嶋良年さん
市民環境部参事	若林伊知郎さん	教育部長	広瀬清隆さん
子ども未来部長	多湖敏晴さん	企画振興部次長	馬場敬人さん

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆様、おはようございます。

本日は、第13回子ども議会にお越しをいただきまして、ありがとうございます。

ご来場の皆様方に何点かお願いをいたします。子ども議会取材のために、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承をいただきますようお願いを申し上げます。また、保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

なお、議場内は飲食禁止とさせていただきます。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

最後に、質問が終了したグループから解散とさせていただきます。お帰りの際は、お忘れ物のないようご注意をくださいませ。よろしくをお願いいたします。

---

午前9時25分開会

○第1グループ議長（小林怜未さん） 最初に議長をします河瀬小学校、小林怜未です。

よろしく申し上げます。

ただいまから第13回彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

---

### 日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（小林怜未さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に1番古川ほなみさん、2番宮川孝太さん、3番桐畑凌斗さん、4番乾礼佳さん、5番江畑博翔さんを指名します。

---

### 日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（小林怜未さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。これにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

---

### 日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 日程第3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

23名の皆さんから質問が提出されていますので、三つのグループに分けて行います。

まず、第1グループの順番は、1番古川ほなみさん、6番大西希実さん、9番吉川結菜さん、12番廣瀬葵さん、15番成宮虹来さん、18番盛岡環奈さん、19番大森結芽さん、22番

黒木優衣さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

1 番古川ほなみさん。古川さん。

〔1 番（古川ほなみさん）登壇、資料提示〕

○1 番（古川ほなみさん） 「彦根市に観光スポットを増やして、み力的にしたい」

私は、彦根市に観光スポットを増やして、魅力的にすることを提案します。

彦根市には国宝の彦根城という観光スポットがあり、ほかの県からも多くの人が集まってきます。しかし、商店街に活気がなかったり彦根城しか楽しめるものがないと、魅力が伝わりません。琵琶湖や山、川、田んぼなどたくさんある自然、寺や神社などの歴史的な建築物、梨や近江牛などの食べ物があるので、それらを生かした観光スポットをつくるとよいと思います。例えば、田んぼで農業体験、琵琶湖でウォータースポーツ、寺や神社などを巡る歴史ツアーなどの観光スポットをつくります。マップや看板などの整備をします。

そのことを伝えるために、公式サイトも増やすとよいと思います。観光に来る人は、ほかの県から来る人も多いので、手軽に見られるスマホを持っている人も多いです。遊園地、例えばディズニーランドなどの年齢別や好きなプラン、どんなところかの動画など、手軽に見られるようにすると、ぜひ行きたいと思ってもらえると思います。彦根市の公式サイトをつくるなら、これを手本としてつくったらよいと思います。

彦根市には、彦根城を世界遺産にするという目標があります。そのためにも、まずは彦根市を通して魅力を知ってもらい、たくさんの人に来てもらい、その人たちから広めてもらうことが大切だと思います。

このようなことから、彦根市に観光スポットを増やして、魅力的にすることを提案します。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） それでは、古川さんからの「彦根市に観光スポットを増やして、み力的にしたい」というご提案についてお答えさせていただきます。

ご提案のとおり、彦根市には、彦根城というあまりにも有名な観光スポットがあるおかげで、毎年多くの観光客をお迎えしております。しかしながら、彦根城以外にもたくさん存在する観光スポットをどのように活用していくか、これが課題であります。

彦根市には、自然や歴史的な建築物、地元ならではの特産品やおいしい食べ物など観光資源となるものがたくさんあり、その情報を探している人が迷ってしまわないように、イベントや観光スポットの情報は彦根観光協会のホームページに、彦根市周辺の少し広い地域の情報や外国人向けの情報は近江ツーリズムボードという団体のホームページに載せていただくようお願いしております。また、市役所でも、SNSなど様々な方法でPRして、できるだけ多くの人に彦根の数ある魅力的なスポットを知ってもらえるようにしています。

これからも、古川さんからご提案いただいたように、皆さんが知りたいと思う情報がスマートフォンなどで手軽に分かりやすく手に入るような工夫を行い、より多くの人に彦根

に来てもらうように取組を進めていきます。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 古川さん。

〔1番（古川ほなみさん）登壇〕

○1番（古川ほなみさん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 6番大西希実さん。大西さん。

〔6番（大西希実さん）登壇〕

○6番（大西希実さん） 「彦根市立図書館の利用者を増やすために」

私は、彦根市立図書館の利用者を増やすための工夫について提案します。

現在、市立図書館に1日約何人の人が訪れていますか。また、それは年々増えていますか。もっと利用者を増やすためにどんな工夫をしていますか。

現在、市立図書館は、彦根市に住んでいない人には、入館は可能だそうですが、本を借りることはできないとお聞きしました。私は、彦根市に住んでいない人にも本を借りられるようになることで、市立図書館をもっと多くの人に利用してもらえるようになり、利用が増えるのではないかと思います。

また、自分が住んでいる地域にはない本が市立図書館にあるかもしれません。だから、インターネット等で彦根市立図書館の蔵書を調べられるようになると、彦根市に来てもらえる人も増えるのではないかと思います。また、図書館に来たことをきっかけに、彦根市に興味を持ってもらい、彦根城や琵琶湖などのいろいろな魅力的なところにも行ってもらえるといいなと思います。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 教育部長。

○教育部長（広瀬清隆さん） 大西さんからは、図書館の利用者を増やすためのご提案をいただき、ありがとうございます。

まず、図書館の1日当たりの入館者数ですが、令和3年度は800人です。平成30年度は690人、令和元年度は716人、令和2年度は696人でしたので、新型コロナウイルス感染症が流行する以前の平成30年度よりも増加をしています。

入館者数を増やすための工夫としては、様々な分野の本を購入したり、新しく入った本を館内の掲示板や図書館だよりのほか、図書館のホームページでも紹介をしています。また、小さなときから本が好きになってもらえるよう絵本の読み聞かせを行っているほか、国語の教科書で紹介されている本やお薦めの本を展示したり、七夕、クリスマスなどの季節に合わせたおはなし会や工作を行っています。

昨年の11月からは、県内で2番目となる読書通帳に記録できる機械を設置し、市内の小学生を対象に読書通帳が利用できるようになりました。今までに1,080の方が利用され、約2万3,000冊の本を通帳に記録してもらっています。

次に、彦根市に住んでいない人も彦根市立図書館で本が借りられるようにしてはどのご提案ですが、彦根市のように多くの市や町では、図書館運営を市民や地元企業などからの

税金で行っています。そのため、市民と彦根市に通勤・通学している人を対象に本を貸出ししています。また、図書館に置いていない本は、本の内容に応じて、県内などのほかの図書館からお借りをして貸出しも行っています。

インターネットを使って図書館の蔵書を調べることについては、図書館のホームページから、本の検索のほか、予約や貸出期間の延長をすることができるようになっていきます。

新しく入った本や人気のある本の紹介、展示やイベントなどについてもお知らせをしていますので、ぜひ大西さんもご覧いただければと思います。

これからも、図書館に来たことをきっかけにたくさんの人が彦根城や琵琶湖などに興味や関心を持ってもらえるような、魅力ある図書館づくりに努めていきたいと思っています。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 大西さん。

〔6番（大西希実さん）登壇〕

○6番（大西希実さん） ありがとうございます。

これで私の提案を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 9番吉川結菜さん。吉川さん。

〔9番（吉川結菜さん）登壇、資料提示〕

○9番（吉川結菜さん） 「季節に合わせた歩道整備について」

私は、歩道の整備の回数を増やすということを提案します。なぜなら、登校中に危険な思いをすることがあるからです。

ある日、集団登校をしているときに草の間から大きな虫が出てきました。虫が苦手な4年生の子は、虫が見えた瞬間に声を上げながら虫のいない方に走って行きました。私が4年生の子の方を向くと、歩道から出て車道に立っていました。気づいた私はすぐに連れ戻したけれども、もし車が走っていたらと考えただけでぞっとしました。

こちらの写真をご覧ください。虫が出てきたのには訳があります。なぜなら、草が生い茂っているからです。私はずっとこの道を通っていますが、草刈りをしてくださるのは年に1度あるかないかです。このままだと、また車道に出してしまうようなことが起きかねません。

このようなことから、私は歩道の整備の回数を増やすということを提案します。実現されれば危険な場所が少なくなり、私たちも保護者の方々も安心して登校したりさせたりすることができます。そして、何より下の学年を連れていく私も安心して連れていくことができます。

ぜひ季節に合わせて整備の回数を増やしてほしいです。ご検討をお願いします。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） それでは、吉川さんの季節に合わせた歩道整備についてお答えをいたします。

市では、市が管理する道路について、業者への発注や市の職員の直接の作業によって、状況に応じて定期的に除草の作業を行っています。市の除草作業の現状としましては、草

が生い茂る時期である春から秋までの期間の中で大体1か所当たり1回から2回程度行うことや、交差点など見通しが悪くなり危険な箇所についてはその都度対応をしております。

本来ですと、吉川さんのご提案のとおり、季節に合わせて除草回数を増やし、いつも草が生い茂っていない状態にするべきではあるのですが、申し訳ないんですけれども、市が管理する市道は600キロ以上ありまして、非常に距離が長く、全ての箇所を何回も除草することは相当な時間と費用が必要ですので、大変難しいと考えております。

このように、市が全ての箇所の除草作業を行うことは現実的に難しいこともありまして、自治会さんによっては、河川沿いの堤防をはじめ道路の除草作業を地域の皆さんが協力して行っているところもございます。市としましては、限られた時間と費用の中ではございますけれども、草の状況を十分に確認し、適切な時期に除草作業を行い、安全な道路となるように努めていくとともに、自治会をはじめ地域の皆様にもご協力をいただきたいと考えておりますので、どうかよろしく願いをいたします。

なお、今写真でお示ししていただきましたのは亀山小学校前の歩道かと思っております。現在この歩道につきましては、毎年少しずつではございますけれども、防護柵の改修であったり舗装の改修等、歩道の再整備を行っておりますので、通学路の安全対策が図れますとともに草が生えにくい状態になると考えておりますので、できるだけこの整備を早く完成したいと考えております。

以上でございます。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 吉川さん。

〔9番（吉川結菜さん）登壇〕

○9番（吉川結菜さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 12番廣瀬葵さん。廣瀬さん。

〔12番（廣瀬 葵さん）登壇、資料提示〕

○12番（廣瀬 葵さん） 「遊具を増やすことに関することの提案」

私は、城南学区で小さい子どもだけでなく、小学校高学年から大人まで運動や遊べる遊具を増やすことを提案します。その理由は、老若男女が楽しめる遊具が少ないからです。

今の私たちが遊んでいる公園では、幼稚園児対象の遊具しかありません。また、最近、前あった運動に関わる遊具が取り壊されてしまったので、運動したり遊んだりする小中学生が減ってしまいました。そのせいで、家や公園でゲームやスマホをする人が多くなってしまっている現状があります。

そして、周りの人に聞いてみると、「ボール遊びができないからお金を出して体育館に行かなければいけない」、「ローラースケートやスケボーをしたいのに公園中の道ががたがたでできないので家の前の道路でしなければいけないため危ない」などの意見が出ました。また、面白い意見もあり、「滑り台が長かったらいいな」、「縄を使って登ったりシーソーで遊びたい」などの意見も出ました。

このように小中学生が運動したり遊んだりすることが増えることで、地域が活性化し、ゲームやスマホをする人も減り、外で遊ぶようになると思います。

これらのことから、城南学区の公園を小さい子どもだけでなく、小学校高学年から大人まで運動したり遊んだりする遊具を増やすことを提案します。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 歴史まちづくり部長。

○歴史まちづくり部長（久保達彦さん） 廣瀬さんの「遊具を増やすことに関することの提案」についてお答えをします。

彦根市には、金亀公園や荒神山公園のように大きな公園から団地の中にある小さな公園まで、目的や広さによって様々な種類の公園があり、その数は合計で約360か所になります。廣瀬さんがお住まいの城南学区には、写真で示していただいた福満公園があり、彦根市の中では中規模の公園になります。

福満公園では、ボール遊びができる大きな広場があり、グラウンドゴルフの利用もできます。また、写真で示していただいた複合遊具をはじめ、小学校高学年まで遊べるターザンロープや、障害を持った子どもたちも遊べるインクルーシブ遊具と言われるブランコなど、年齢層も幅広く、誰でも様々な遊びができるようにリニューアルをしているところです。

さらに、福満公園に隣接して現在整備中の彦根市スポーツ文化交流センター、プロシードアリーナHIKONEにおいては、小学校高学年も利用の対象となる複合遊具や雲梯、懸垂などができる健康遊具も整備中でありまして、子どもから大人まで幅広くご利用いただける予定です。

なお、ローラースケートやスケートボードなどの専用施設の整備はできませんけれども、公園の中で工夫して遊んで答えてくださいますようお願いいたします。

市といたしましても廣瀬さんの提案のように遊具を増やしていきたいと思っておりますけれども、広場も必要ですので、バランスを考えながら、よりよい公園の整備に努めていきたいと考えています。

以上です。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 廣瀬さん。

〔12番（廣瀬 葵さん）登壇〕

○12番（廣瀬 葵さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 15番成宮虹来さん。成宮さん。

〔15番（成宮虹来さん）登壇〕

○15番（成宮虹来さん） 「みんなが行きやすい自習室を亀山学区に」

私は、私が住む亀山学区に勉強する場所を新しくつくることを提案します。

私は、今、家で1人で勉強をしています。だけど、1人より2人や3人いる方が個人的に勉強がしやすいと考えます。なぜなら、2人や3人いる方が、それぞれ得意分野が違う



ので、場合によって質問し合ったり教え合ったりできると思うからです。また、家では集中して勉強することが少なく、雑誌やスマートフォンなどの誘惑に負けてしまいます。私だけでなく、いろいろな事情により勉強できない人にとっても、勉強できる無料の場所があるがたいものだと考えます。

そこで、私は勉強する場所が家の近くにあるかどうか、彦根市子ども未来部子ども・若者課が作成している自習ができる施設情報で調べました。しかし、亀山学区には自習スペースはなく、河瀬学区や城陽学区など私たちが行くには少し遠い場所ばかりで、1人では行けませんでした。1人で行くことができれば、家族の予定とは関係なく、自分で計画を立てて自立することができます。

加えて、夏休みなど長い休みのときに大学生の人が来てくれるとさらにうれしいです。なぜなら、大学生が来てくれることによって勉強が分かるようになっていたり、大学に行ってみないと大学に対して好感も上がったりするなど、とてもいいと思うからです。

今、学校では、グループワークなど、友達と協働して学習を進めるようになってきています。勉強する場所をつくってくれることによって、友達や大学生の人たちと触れ合っ学ぶことができます。

ぜひ亀山学区に勉強できる場所をつくってほしいです。お願いします。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 子ども未来部長。

○子ども未来部長（多湖敏晴さん） 成宮さんからの亀山学区に勉強する場所をつくることについてお答えいたします。

成宮さんがおっしゃるように、様々な事情から自宅で勉強することが難しい方が無料で利用できるように、市内の公共施設において、市民の皆様の利用を優先しながら、会議室などが空いている日があれば、自習室としての利用ができるよう協力をお願いしています。

亀山学区には農村環境改善センター、愛称でグリーンピアひこねと呼ばれている施設がありますが、令和3年度には長期休業中の自習室を設置していました。しかしながら、今年の夏休みにつきましては、コロナウイルスのワクチン接種会場となったため、自習室を設置することができませんでした。

ワクチン接種会場として使用するなど、そのときの状況によるところがあるため、必ず亀山学区に自習室を設置するとお約束することは難しいですが、冬休みや春休みについても、協力してもらえ施設の情報を皆様にお知らせさせていただきますので、ぜひ自習室を活用していただければと思います。

次に、大学生が来てくれることについてお答えいたします。

大学生に勉強を教えてもらったり大学について聞いたりして交流することは、とてもよい考えだと思います。自習室は、あくまで場所を開放して提供しているだけであり、常に誰かがいるという状態ではありません。成宮さんがおっしゃるように、大学生に協力してもらえよう検討していきたいと考えていますが、全ての自習室設置場所に来てもらうことができるのか、利用者のいない日や時間帯はどうするかなどの様々なことを考える必要

があります。

すぐに来てもらうことは難しいですが、これから実現できるように考えていきます。

以上です。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 成宮さん。

〔15番（成宮虹来さん）登壇〕

○15番（成宮虹来さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 18番盛岡環奈さん。盛岡さん。

〔18番（盛岡環奈さん）登壇〕

○18番（盛岡環奈さん） 「彦根市全体に花が咲く木を植えて明るい市にする」

私は、彦根市全体に花が咲く木を植えて、明るい市にしていくことを提案します。

私の通っている若葉小学校では緑がとても多く、自然がとても豊かな学校です。また、季節が変わると、その季節によって多彩な色の花を楽しむことができます。私はその若葉の花を見て心がすごく落ち着きます。そこで、彦根市全体の人に花を見て楽しんでもらいたく、この提案をします。

現在もロシアがウクライナに侵攻しています。建物が壊され大勢の人々が亡くなるという事態になっています。ウクライナの人々に少しでも応援の気持ちや平和を願う気持ちが届くように、国の花であるヒマワリを植えて一緒に平和を願いたいと思います。

ヒマワリや花の咲く木をたくさん植えて、元気なまちにしたいです。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） それでは、盛岡さんからの「彦根市全体に花の咲く木を植えて明るい市にする」についてお答えいたします。

今回、ご提案いただきました花が咲く木を植えて明るい市にすることにつきましては、まちの景色をよくし、花が咲くことで人を楽しませたり心を落ち着かせたりするなどだけではなく、豊かな緑はきれいな水と空気を育み、様々な生き物を育む場所になります。また、花や緑が増えることは、植物が二酸化炭素を吸収することで地球温暖化の防止にもつながるため、とてもよい提案であると考えております。

彦根市では、まちに花や緑を増やす取組といたしまして、まず、道路沿いや川の堤防沿いなど公共の場所に花を植える「花いっぱい運動」に取り組まれている団体に花の苗や肥料の購入を支援する取組をしています。

また、花に限定したものではありませんが、会社などが建物を建てるときに敷地内の緑化をお願いしたり、森やまちに緑を増やす取組をしている団体と協力して緑の募金を実施し、集まった募金を使って自治会に桜やハナミズキなどの苗木をお配りするなどして緑化を進める取組をしています。

そのほかにも、地域の皆さんには田んぼや畑でヒマワリなどの植物を育ててもらい、きれいな町並みをつくることに取り組んでいただいております。

彦根市が夏に咲くヒマワリのほか四季折々の花を咲かせ、1年を通して花や緑のあふれるまちとなるよう、市だけではなく、会社や学校、自治会など多くの市民の皆さんにも取り組んでいただきたいと考えております。盛岡さんも、学校やおうちなど身近なところでできることを一緒に考えていただけるとうれしく思います。

以上です。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 盛岡さん。

〔18番（盛岡環奈さん）登壇〕

○18番（盛岡環奈さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 19番大森結芽さん。大森さん。

〔19番（大森結芽さん）登壇、資料提示〕

○19番（大森結芽さん） 「子ども選挙についての提案」

私は、彦根市で子ども選挙を行うことを提案します。その理由は、日本や彦根市の若者に政治に積極的に参加してほしいからです。

資料を見てください。令和3年10月の衆議院議員選挙の投票率を見てみると、全体が55.93%だったのに対し、10代が43.21%、20代が36.50%で、およそ3人に1人しか投票していないことがわかります。この数字から、若者が政治に積極的に参加しているとは言い難い現状があります。

外国に目を向けると、日本より投票率の高いコスタリカでは、3歳から17歳が本物そっくり投票する「子ども選挙」があり、投票結果も発表されるため、みんな真剣に取り組んでいます。また、若者の投票率が80%以上のスウェーデンでは、国や学校がサポートし、生徒が主導で行う「学校選挙」が行われています。

このように子どもの頃から選挙を体験し、自分たちで決めたことを実現できることを知ることが若者の積極的な政治参加につながると考えます。

これらのことから、彦根市で子ども選挙を行うことを提案します。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（牛澤 淳さん） それでは、大森さんの「子ども選挙についての提案」にお答えいたします。

ただいま、令和3年度の衆議院議員総選挙における全国の投票率をお示しいただきましたが、彦根市の投票率を見ましても、全体が54.55%に対し、10代は38.76%、20代は33.67%となっております。大森さんのご指摘のとおり、彦根市でも若い世代の投票率が低い現状となっております。

こうした現状や、選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上へと引き下げられたことも踏まえ、彦根市選挙管理委員会としましても、若い方の投票率の向上に向けた取組や、若い方の積極的な政治参加の重要性を伝えていく取組が重要であると考えております。

現在、彦根市選挙管理委員会では、市内の小・中学校を対象に「選挙の出前講座」とい

うものを実施しています。そこでは、申込みのありました学校に訪問いたしまして選挙制度について説明するほか、実際の投票箱や投票用紙を使用した模擬選挙を体験していただくなど、選挙の大切さを感じてもらう取組を行っています。また、生徒会などの学校で実施される選挙において、投票箱や記載台等の選挙物品の貸出しを行ったり、18歳未満の方でも、親と一緒に親子連れで投票所に入っただき投票を間近に見てもらうことで、選挙を身近に感じていただき、将来の投票につながるような取組も行っています。

今回、大森さんからご提案いただきましたコスタリカやスウェーデンの「子ども選挙」の事例につきましては、実際の国政選挙時に選挙権を持たない子どもを対象に実施されており、投開票や開票結果も公表されているなど、小さな頃からの政治参加の意識の向上や将来的な投票率の向上につながるものと国際的にも評価されていると聞いております。

しかしながら、彦根市という一つの団体だけで子ども選挙に取り組むには、法律的なことですとか予算的なことなど多くの課題がございまして、実現するのが難しい状況でございます。

彦根市選挙管理委員会としましては、「選挙の出前講座」などをもっと多くの学校で行ってもらいまして、若い頃から選挙を身近に感じてもらえるように取り組むとともに、取組事例の研究を引き続き行いまして、よりよい啓発活動を行っていきたいと考えております。

大森さんにおかれましても、若い方が選挙に行き政治に積極的に参加してほしいという気持ちを今後も大切にしていいただきまして、周りの人たちも選挙の大切さを広めていただくよう、よろしく願いいたします。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 大森さん。

〔19番（大森結芽さん）登壇〕

○19番（大森結芽さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（小林怜未さん） 22番黒木優衣さん。黒木さん。

〔22番（黒木優衣さん）登壇、資料提示〕

○22番（黒木優衣さん） 「みんなが幸せになれるように」

稲枝北小学校のみんなが幸せになれるように、学校の施設・設備を改善することを提案します。

私の通っている稲枝北小学校は、歴史のあるすばらしい学校です。また、たてわり活動も盛んで、昼休みもいろんな学年の子が交ざって遊んでいるほど仲よしの学校です。しかし、先日遊んでいると、鉄棒で遊んでいた低学年の子の手がさびだらけでした。また、こちらの写真のように、登り棒は壊れているため、危ないので使えません。そこで、もっとみんなが仲よく遊べるために、遊具を新しく設置すること、補修すること、思い切って走れるような芝生の設置をお願いしたいです。

次に、体育館は、全体的な老朽化のため壊れてしまっています。また、窓が小さく風通

しが悪いためとても暑く、授業などにも影響が出ています。そこで、体育館の天井と壁の補修、クーラーの設置をお願いしたいです。

最後に、最近、授業でタブレットをよく使います。しかし、タブレットを使うとき、この写真のように、教科書や筆箱、ノートと一緒に机の上に置こうとすると、物が下に落ちてしまったり、タブレットが下に落ちそうになります。物が落ちる音で、ほかの人などみんなが勉強に集中しにくくなったりもします。そこで、机のサイズを大きくすることをお願いしたいです。

今回の提案は、稲枝北小学校の6年生みんなで国語の授業で話し合いを繰り返して考えてきました。みんなが幸せになれるように、学校の施設・設備を改善することを提案します。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 学校に通うみんなの様子を見て、学校施設の問題点を見つけ、それを解決するにはどうしたらいいかとたくさんの方の提案をいただき、ありがとうございます。自分だけでなく、稲枝北小学校のみんなが幸せになれるように話し合いをされたことは、大変素晴らしいことだと思います。

まず、遊具につきましては、危険な箇所がないか先生に毎月点検をしていただき、皆さんがけがをするような危険な箇所があれば、順番に修理をしたり新しい遊具を購入したりしています。鉄棒のさびが手について困るようであれば、先生に相談をしてください。壊れている登り棒については、今年修理をして使えるようにする予定ですので、修理が終わりましたらぜひ皆さんでお使いください。

次に、芝生の設置についてですが、芝生を植えますと管理が必要となります。例えば、定期的に水やりをしなければなりませんし、伸び過ぎると滑りやすくなるため、定期的に芝生を刈り取る必要があります。そのために芝刈り機も必要となり、芝生の維持に多くの費用がかかることとなります。さらに、芝生上では車椅子による移動が難しくなり、今後、不便を感じる人がいるかもしれません。このようなことから、芝生の設置は難しい状況です。

次に、体育館を含めた学校施設は、老朽化に応じて計画的に改修を行っています。稲枝北小学校の体育館についても、今後、改修工事を計画しています。また、危険な箇所がある場合は急いで補修しますので、もし皆さんが学校内で危険なところを見つけたときは、先生に連絡をしてください。

次に、体育館のエアコンの設置についてですが、エアコン本体の費用に加え、冷えた空気を保つ断熱用の壁や天井に改修する工事も必要になり、多くの費用がかかることとなります。このようなことから、体育館にエアコンを設置することは大変に難しい状況です。

最後に、タブレットを授業で使用する際、物を落とさないように机のサイズを変更してほしいというご提案についてお答えします。

現在、彦根市内の小・中学校では、大きさが奥行き40センチメートル、幅60センチメートルの机を使っています。学習机がよりうまく使えるよう、モデル校で机の使い方について

ていろいろと考えてきましたが、机の奥行き・幅を大きくすると、歩く場所が狭くなったり、低学年の友達にとっては持ち運びがしにくくなったりしてしまいます。また、折り畳み式の補助台等も考えてみましたが、教室が狭くなるというご意見もいただきました。

そこで、新しい取組として、現在のコンピューター教室のパソコンの台数を減らし、グループ活動を快適に進めることができるアクティブラーニング教室をこれから小学校で作っていく予定です。このアクティブラーニング教室では、教室よりも広い机を取り入れ、教室内に電子黒板を導入するなど、皆さんがお互いの意見や考えを深め、気持ちよく学習を進めていけるようになると思います。

今後も、皆さんにとって利用しやすい学校施設となるよう、環境を整えていきたいと考えています。

○第1グループ議長（小林怜未さん） 黒木さん。

〔22番（黒木優衣さん）登壇〕

○22番（黒木優衣さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（小林怜未さん） しばらくの間、休憩します。

皆さん、お疲れさまでした。

○議会事務局長（杉本弘之さん） お知らせします。休憩時間は10分程度といたします。

午前10時11分休憩

午前10時19分再開

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆さん、こんにちは。

本日は、第13回子ども議会にお越しをいただきまして、ありがとうございます。

ご来場の皆様方に何点かお願いをいたします。子ども議会取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承をいただきますようお願いいたします。また、保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

なお、議場内は飲食禁止とさせていただいております。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

最後に、質問が終了したグループから解散とさせていただきます。お帰りの際は、お忘れ物のないようご注意ください。よろしくをお願いいたします。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 議長を交代しました。稲枝北小学校、黒木優衣です。よろしくお願いいたします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第2グループの順番は、2番宮川孝太さん、5番江畑博翔さん、8番上田英祥さん、11番右川航大さん、14番巴佐以子さん、17番本庄宏敏さん、20番藤原雄蔵さん、23番角田果巴さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

2番宮川孝太さん。宮川さん。

〔2番（宮川孝太さん）登壇〕

○2番（宮川孝太さん） 「またいきたい！と思える図書館づくり」

僕は、若者の活字離れを止めるために、魅力のある図書館をつくることを提案します。その理由は、僕の周りの友達みんなゲームばかりで、全く本を読んでいません。また、本を読みに行く図書館に行ったときも、高齢者ばかりで子どもがあまり見られず、若者の活字離れを感じたからです。

僕が以前行ったことのある図書館では、インターネットを使った電子書籍などで家でも本がたくさん読めるように工夫されていたり、VRシアターを活用して物語を字だけでなく映像と音声で体験できるようにされていたり、珍しい本や世界の本、仕掛け絵本などがたくさん置かれていたりして、「面白い！」「また行きたい！」と思えるような図書館でした。

こういった図書館をつくるのが実現するとみんなが図書館に行くようになり、ゲーム以外の楽しみが見つかって目が悪くなるのを防いだり、想像力も広がって活字離れも止められると思います。

だから、僕は、若者の活字離れを止められる「また行きたい！」や「面白い！楽しい！」と思えるような魅力のある図書館をつくることを提案します。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 教育部長。

○教育部長（広瀬清隆さん） 宮川さんからは、若者の活字離れを止めるための魅力のある図書館をつくることのご提案をいただき、ありがとうございます。

宮川さんが行かれた図書館にあった電子書籍は、図書館に来館をしなくても、インターネットで図書の貸出しや返却ができる方法で、最近、各地の図書館でも導入され始めました。VRシアターについては、文字だけでなく、映像や音声を合わせた仮想空間で図書館が体験できる最新の技術です。

現在、彦根市立図書館では、電子書籍は、書籍数が少なく図書館の資料として残らないこと、VRシアターは最新の技術のため、その効果を今後検討する必要があるなどの課題もあり、導入はできていませんが、今後、利用者の方々の便利さが向上するように研究をしていきたいと思っております。

宮川さんが言われるように、若者の活字離れを止めることは大切なことで、読書は活字離れを止めるのに大きな効果があると思います。そのためにも、調べ物や読みたい本を探したいときは、電子書籍も便利ですが、図書館に来ていただき、自分で本棚の中から探したり職員に気軽に相談するなどして、実際に本を手にとって、お気に入りの本を見つけてもらいたいと思っています。

また、若者が来なくなる取組として、児童書の充実を行っています。昨年度は、通常の児童書の購入のほか、市民や地元企業の方々からご寄附をいただき、さらにたくさん児童書を購入いたしました。今後は児童書の書棚を新しく購入する予定をしております。

昨年の11月からは、市内の小学生を対象に、彦根市立図書館で借りた本を読書通帳に記録できる機械を県内で2番目に設置し、今までに1,080の方が利用され、中には2冊目の読書通帳を利用されている人もいます。令和3年度と令和2年度の貸出冊数を年代別で比較しますと、小学生の伸び率が一番高くなっており、年間で約6万9,000冊の本を読んでもくれました。

これからも、宮川さんが言われるように、皆さんが「図書館に行きたい!」と思える魅力ある図書館づくりに努めていきたいと思っています。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 宮川さん。

〔2番（宮川孝太さん）登壇〕

○2番（宮川孝太さん） ひこね燦ばれすの跡に図書館を建てると聞きました。ひこね燦ばれすの跡をぜひ夢のある図書館にしてください。

ありがとうございました。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 5番江畑博翔さん。江畑さん。

〔5番（江畑博翔さん）登壇〕

○5番（江畑博翔さん） 「彦根の自然体験について」

コロナ禍でできなくなったことが増え、明るい話や楽しい話が少なくなったように思います。僕は、彦根市のことを調べている中で彦根市総合計画を読みました。彦根が元気になるヒントがこの中にあると思いました。この計画の中からできることから取り組めば、彦根は盛り上がると思いました。そこで、彦根市総合計画の中から提案します。

彦根市を外国の人に紹介するYouTubeチャンネルも見ました。彦根城や彦根城の周りの紹介が中心でした。僕は、彦根市にはもっといろいろな魅力があると思います。総合計画には「戦略的な観光プロモーションの展開」と書いてあります。僕は、彦根市の自然の魅力をもっと生かした体験型のツアーがいっぱいあるまちになればいいなと思います。

例えば、彦根の自然体験ができる場所をぐるりと一周するサイクリングコース「ヒコイチ」をつくったり、いつでも外来魚を釣ったり観察したりすることで琵琶湖について考えられる場所をつくったり、荒神山や多景島で自然観察会を開いて、市民も観光客も楽しめるようにすると思います。

彦根でしか体験できないことがきつといっぱいあると思うので、彦根に来たから体験できる、彦根市の自然の魅力をもっと生かした体験型のツアーをつくると思います。いかがでしょうか。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 産業部長。

○産業部長（中村武浩さん） 江幡さんからの「彦根の自然体験について」というご提案についてお答えします。

このたびは、彦根を盛り上げていくために幾つものご提案をいただき、ありがとうございました。



彦根市には、国宝であり世界遺産登録を目指している彦根城をはじめとした歴史的・文化的価値が高い施設だけでなく、琵琶湖や荒神山、佐和山などのたくさんのすばらしい自然が存在しています。

こうした数多くの自然を生かした体験型のツアーといたしまして、例えば、彦根市とその周辺の4町、多賀町、甲良町、豊郷町、愛荘町などで構成する観光の協議会では、「そのばk i t c h e n」という企画を実施しています。

「そのばk i t c h e n」とは、彦根市をはじめとする湖東地域の豊かな自然のもとで育まれている地域の農産物に注目した企画で、旬の食材をサイクリングなどで巡り、食材の収穫体験を行うだけでなく、収穫体験をした畑などでシェフによる料理を楽しむことのできるツアーです。今年の9月に開催したときは、彦根市内をサイクリングで巡り、琵琶湖やアユの加工現場を見学したり彦根梨の収穫体験を行い、その場でもぎたての梨や料理を楽しむなど、参加者の皆様に彦根の自然とおいしい食事を楽しんでいただけたのではないかと考えております。

今回、江畑さんから彦根の自然体験についてすばらしい提案をいただきましたので、ぜひとも参考にさせていただき、より多くの方に彦根ならではの自然の魅力を感じてもらえるよう、彦根市と周辺4町などで構成する観光の協議会や様々な観光団体などと共に体験型ツアーを充実していきます。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 江畑さん。

〔5番（江畑博翔さん）登壇〕

○5番（江畑博翔さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 8番上田英祥さん。上田さん。

〔8番（上田英祥さん）登壇〕

○8番（上田英祥さん） 「教科書の電子化について」

僕は、教科書の電子化を提案します。その理由は二つあります。

一つ目は、教科書より優れた機能があることです。彦根市は、去年からタブレットを本格的に授業で使うようになりました。英語の授業でタブレットを使ったときに、音声で英語を聞いたり、動画でやり取りを見られたり、すぐに選んだページを見られたりしました。僕は、英語以外でも、この機能を使って授業をよりよくできると考えました。

二つ目は、ごみを削減することができることです。資源回収のとき、僕はよく教科書を見かけます。自分の地域だけでもあれだけの量が回収されているのだから、全国では本当にたくさんの教科書が捨てられているんだと思います。なので、教科書を電子化することで使われる紙が要らなくなります。そうすれば、使わなくなった教科書を捨てることのないので、紙の資源の削減につながります。森林伐採を減らすことも考えられます。結果、地球温暖化防止につながると思います。

これらのことから、僕は教科書の電子化を提案します。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 上田さんが外国語科の学習で学習者用デジタル教科書を積極的に活用して学習を深められている様子がよく分かり、とてもうれしく思いました。

上田さんのおっしゃるとおり、デジタル教科書の活用は紙資源の節約となり、SDGs推進の観点からもとてもよい考えであると思います。彦根市でもGIGAスクール構想を進めており、1人1台の学習者用端末が整備され、いろいろな教科などの学習で活用していただいています。

学習者用デジタル教科書では、教科書の紙面を拡大して表示したり、教科書の紙面にペンやマーカーで書き込んだり消したりすることや、それらを保存したりすることが簡単にできます。また、動画や音声など関連する情報を簡単に得ることができ、大型の画面で各自の画面を共有できることによって、皆さんの学習を充実させることができると考えられます。

しかし、デジタル教科書は紙の教科書と異なり、学年が変わると手元に残らないこと、今後利用を拡大するためには学校や家庭の通信環境の整備が必要となる場合があること、さらに、姿勢や視力の低下など健康面に影響があることなど、まだまだ課題もあると言われています。

現時点では、全国で研究が進められていますが、その結果、寄せられる課題も整理をしながら、国の方でどうするか検討を進めていくことになっています。国の方針としては、2024年度から全国一斉に外国語科のデジタル教科書をまずは先行して導入し、その次に、算数・数学科の導入について検討していくことが発表されています。各学校でも、紙の教科書と併せながら、児童・生徒の皆さんの学びが広がったり深まったりするような活用の仕方をこれから教育委員会としても考えていきたいと思えます。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 上田さん。

〔8番（上田英祥さん）登壇〕

○8番（上田英祥さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 11番右川航大さん。右川さん。

〔11番（右川航大さん）登壇〕

○11番（右川航大さん） 「彦根オープンセットを体験型施設として活用することについて」

僕は、彦根オープンセットを体験型施設として活用することを提案します。

僕の鳥居本小学校では、地域のことを知るために、年に1度ウォークラリーが開催されます。いろいろな場所を回り探索するのですが、そのとき、彦根オープンセットという映画の撮影に使用される場所に行き、中を見学することができました。こちらはふだん一般に公開されている場所ではありません。僕は映画が大好きなので、本物のセットを見ることができ、とても感動しました。

そこで、彦根オープンセットという場所を地元の方や市内に住む方にもっと知ってもらい、観光客の方にも実際見て体験できるような施設として活用できるようになってほしいです。彦根には、彦根城をはじめ撮影に適した場所が数多くあります。彦根オープンセットも体験型施設となれば、観光地として多くの方に来てもらえます。彦根市のことをもっと知ってもらうきっかけになって、もっと彦根が活気づいてほしいと思います。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） 右川さんのご提案いただいています「彦根オープンセットを体験型施設として活用することについて」というご提案についてお答えいたします。

彦根オープンセットは、民間の会社が運営されている施設でありまして、様々な撮影に使われていますが、現在のところ、一般には公開されていない施設であります。

右川さんがご提案していただいております体験型施設として活用していくのは、すぐには難しいかも分かりませんが、映像作品の舞台となった施設や場所を観光地としてPRしていくといった新たな観点を持って考えますと、非常に重要なことだと考えております。彦根オープンセットを運営している会社をお願いをしていきたいと考えております。

また、オープンセットだけではなく、彦根市内では多くの場所で映像作品の撮影が行われておりますので、彦根の撮影スポットとしての魅力を新たに見つけ出し、市民の方、観光客の方に向けてどんどん発信していければよいと思いますので、これからも応援をよろしくお願い申し上げます。

なお、和田市長は、彦根市をエンターテインメントのまち、映画のまちにしたいという公約を掲げております。今後、映画の誘致等々を進めてまいりますので、どうかご期待いただければと思います。

以上です。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 右川さん。

〔11番（右川航大さん）登壇〕

○11番（右川航大さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 14番巴佐以子さん。巴さん。

〔14番（巴 佐以子さん）登壇、資料提示〕

○14番（巴 佐以子さん） 「安全、安心な通学路にするために」

私は、通学路に信号機と歩道を設置することを提案します。

私が城陽小学校へ通学する途中に危険な場所が二つあります。

一つ目は、城陽幼稚園から北へ少し行ったところにある十字路です。なぜなら、交通量が多く、地図のように両側に信号機があるので、信号で止まらずに通りたい車がスピードを出して通るからです。横断歩道がありますが、なかなか止まってくれず、渡れないときが多いです。また、急に曲がってくる車もあり、怖いと感じることがあります。

ですから、信号機をつける必要があると思います。信号機の設置基準を聞いてみたところ

ろ、交通量や事故によって取り付けられることができ、信号機にもいろいろな種類があることが分かりました。この場所は登下校のときにたくさんの人が通るので、押しボタン式信号機をつけてみてはどうでしょうか。

もう1か所は、甘呂町の老人ホームの前の道路です。歩行者用の白線が引かれていますが、幅が狭く、52センチメートルしかありません。低学年の子が白線をはみ出してしまうことがあるので、車に当たりそうで大変危険です。

ですから、道幅を広くして、十分な幅の歩道を設置する必要があると思います。そうすれば、安心して通学できます。

このグラフを見てください。このグラフは、登下校中の児童が事故に遭う割合がとても多いことを示しています。事故を防ぎ、児童が安全に通学できるように、私は、通学路に信号機と歩道を設置することを提案します。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 教育部長。

○教育部長（広瀬清隆さん） 安全・安心な通学路にするために、貴重な提案をありがとうございます。

巴さんが指摘されるとおり、彦根市内でも毎年、登下校中の事故が報告されています。こうした事故を少しでも減らすために、本市では平成26年度から「彦根市通学路交通安全プログラム」をつくり、現在は「子どもの移動経路交通安全プログラム」として、学校の先生や警察、道路を管理している職員などが集まって通学路を点検しています。そこで危険と判断された箇所については、道路上に注意をしてもらうための線を引いたり、車から歩行者を守るための柵を設置したりするなどの安全対策を行っています。

今回、巴さんご提案の内容についても、それぞれ担当する警察や道路を管理する人に調査をしてもらいました。

まず、押しボタン式信号機を設置できないかについては、信号機を設置する基準により、信号機を設置する道路は、一方通行の場合を除いて、赤信号で停止している自動車などの横をほかの自動車が安全に擦れ違えることができる幅を確保することが必要になります。巴さんがご希望される交差点の道路の幅は、老人ホームからJA東びわこに行く道路は十分な広さがありますが、城陽幼稚園から甘呂神社に行く道路は自動車同士が擦れ違えるための十分な幅がないため、歩行者が歩く場所にはみ出す自動車や青信号で強引に走行する自動車による事故の発生が心配され、信号機を設置することは大変難しいとのことでした。

次に、道幅をもう少し広くすることについてですが、ご質問の道路を改めて確認いたしました。ご指摘のとおり、道幅も狭く歩道もありません。巴さんご提案のとおり歩道の設置ができれば安全になりますが、道路を広げることは難しいことから、ほかにもっと安全な通学路がないかや、現状の道路の中で少しでも安全になるような対策が取れないかなど、安全な通学路の確保について今後も検討してまいります。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 巴さん。

〔14番（巴 佐以子さん）登壇〕

○14番（巴 佐以子さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 17番本庄宏敏さん。本庄さん。

〔17番（本庄宏敏さん）登壇〕

○17番（本庄宏敏さん） 「大雪に負けない取り組みを」

僕は、除雪設備を充実させ、みんなが安心・安全なまちづくりを提案します。

昨年度に彦根市では、全国でも特に多い記録的な大雪に見舞われました。僕の周りでも、車が止まっていたり家の屋根がつぶされたりしました。そして、平和堂では、新鮮な食材が多賀町の流通センターから草津市や大津市の店に届かなくなるなど、たくさんの被害が出ました。今後またたくさんの大雪が降ると考えられます。

調べたところ、彦根市には、除雪などに使える除雪車やショベルカーなどの機械は合わせて82台あると聞きました。しかし、融雪道路などの設備はありません。近隣の長浜市や米原市はそのような設備があります。長浜市や米原市と違ってあまり豪雪地域ではないけれども、今後、彦根市もこのようなことに力を入れていくべきだと考えます。

そこで、融雪道路設備にすることや除雪車台数を増やすこと、また、家の補強に対する補助などを充実することを提案します。彦根市にはお金がないことも分かりますが、彦根市民の安全・安心のために、よろしく願います。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） 本庄さんの「大雪に負けない取り組みを」についてお答えさせていただきます。

昨年度の年末年始の大雪につきましては、特に12月26日から27日にかけて24時間降雪量が68センチメートルとなり、これは彦根地方気象台の統計で過去最大を記録したほか、最大積雪時の深さは73センチメートルで、彦根市の12月の積雪で過去最大になるなど、記録的な大雪でした。

この大雪では、名神高速道路の通行止め、国道8号線では車両が動けなくなるなど、市内各所において多くの通行障害が発生し、市民生活や救急搬送に大きな影響が出るなど、混乱を招きました。

彦根市では、この大雪時を含め、除雪作業を市内の建設業者さんをお願いしておりますが、本庄さんがお調べいただいたとおり、昨年度は業者さんが所有する車両合計82台で除雪を行いました。

今年度の除雪体制に向けては、本庄さんがご提案されている融雪設備の設置について、昨年度の大雪で通行障害がありました国道8号線の東沼波町で、現在、国が工事を進めているところであります。また、市においては、除雪作業を行ってもらう業者の数や車両を増やすなどで対処したいと考えているほか、除雪により山のように積み上げられた雪の処分も課題でしたので、この雪を運び出し処分する場所を確保するなど、改善していきたいと考えております。

彦根市は、多くの皆様が利用される幹線道路の除雪を優先しますので、地域内の生活道路や歩道、通学路について、市が行っている除雪機械の購入補助や除雪作業を委託する補助制度を活用していただき、地域の皆様にご協力をお願いしたいと考えており、市と地域の皆さんと共に大雪に負けない彦根市を目指していきたいと思います。

最後に、家の補強に対する補助でございますが、市では今のところ、雪に対する補強の補助はありませんが、地震に対する補強の補助制度があり、人の命に直結する耐震改修の補助を最優先しているところでございます。

以上です。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 本庄さん。

〔17番（本庄宏敏さん）登壇〕

○17番（本庄宏敏さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 20番藤原雄蔵さん。藤原さん。

〔20番（藤原雄蔵さん）登壇〕

○20番（藤原雄蔵さん） 「公園の遊具を充実させてほしい」

公園の遊具を充実させてほしい。

僕は野瀬町に住んでいますが、家の近くに庄堺公園があり、前はよく友達と一緒に遊びに行っていました。しかし、ターザンロープなどの大型の遊具が撤去され、その後に別の遊具が新しく設置されるのかと楽しみに待っていましたが、いまだに新しい遊具は設置されていません。

今、庄堺公園には滑り台、ブランコなどの遊具ありますが、その多くが低学年向けとなっています。高学年向けの遊具が撤去されてからは、公園に行く回数が減りました。そのことは、僕だけではなく、友達も同じように感じています。友達とは、公園ではなく家の中で遊ぶことも多くなりました。

そこで、僕は、彦根市の公園に友達が楽しく集まれる環境をつくるために、次の2点を提案します。

一つ目は、高学年向けの遊具を設置することです。とても魅力的な遊具があれば、たくさんのお子どもたちが集まってくれると思います。

二つ目は、友達との交流をより深めるために、今よりも多くの机やベンチを設置することです。そうすることで、よりたくさんのお友達とのコミュニケーションが取れるようになるからです。

このような公園が身近にあれば、みんなが気の向くまま公園に足を運ぶようになります。そして、集まったみんなが楽しい時間を過ごせるようになるのではないのでしょうか。そのためにも、ぜひ公園遊具の増設と充実を検討してほしいと思います。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 歴史まちづくり部長。

○歴史まちづくり部長（久保達彦さん） 藤原さんの「公園の遊具を充実させてほしい」

についてお答えをします。

まず、庄堺公園のターザンロープを撤去した経緯でございますが、ターザンロープは平成5年に設置された遊具で、これまでから滑車やロープなどの修繕を繰り返しながら利用してきましたが、設置から約30年が経過し、さびたりして劣化が進んだことから、安全の確保ができないと判断をして撤去を行いました。

その跡地に同様のターザンロープを新しく設置しようとする多額の費用が必要となり、現段階では非常に困難であることから、大きな砂場に変更しています。

藤原さんの一つ目の提案であります高学年向けの遊具を設置することですが、先ほどもお答えしましたとおり、大きな遊具を設置するには多額の費用がかかりますので、今すぐ庄堺公園にターザンロープのような遊具を設置することは困難であります。

しかしながら、庄堺公園の今ある遊具で遊んだり、大きなグラウンドではスポーツやボール遊びなどの利用が可能ですので、思う存分友達と体を動かしていただき、運動能力や体力の向上に励んでもらえればと思います。

また、二つ目の提案であります友達との交流をより深めるために、今よりも多くの机やベンチを設置することですが、現状において机のある休憩場は少ないですが、ベンチは多く設置してあり、休憩やコミュニケーションを図るための数としては一定の数があると認識しています。しかしながら、今後ご利用の状況を見ながら、必要であれば増設していきたいと考えています。

藤原さんの提案を今すぐ実現することは難しいですが、市としても皆様に喜んでもらえるような公園整備を目指していますので、今後も積極的に公園を利用していただきますようお願いいたします。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 藤原さん。

〔20番（藤原雄蔵さん）登壇〕

○20番（藤原雄蔵さん） 子どもたちが満足できる遊具を置いてもらいたいです。

ありがとうございました。（拍手）

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 23番角田果巴さん。角田さん。

〔23番（角田果巴さん）登壇〕

○23番（角田果巴さん） 「小学生と大学生がふれ合う機会を設ける」

私は、小学生と大学生が触れ合う機会を設けることを提案します。

最近いろいろな学校にタブレットが導入され、ICT機器を使った学習が進められています。私もタブレットを使用する授業を受けていて、とても便利だなと思いました。

しかし、前はICT機器を使った授業はあまりなかったため、そのようなものの操作に慣れていない人がたくさんいます。そこで、ICT機器をたくさん使っている大学生に支援してもらうことで、私たちの学習はよりスムーズに進められると思います。

また、タブレットを使用する授業の中では、調べ学習が特に多いです。そこで、調べてみると、彦根市にある滋賀大学には日本で最初につくられたデータサイエンス学部がある

ことを知りました。そのデータサイエンス学部は、主に膨大なデータを基に分析して、いろいろな課題を解決することを目的としている学部です。だから、そのデータサイエンス学部の方にデータを扱う上で気をつけることなどを教えてもらうことで、先ほど話した調べ学習に役立つと思います。

また、滋賀大学に関わらず、彦根市には四つもの大学があります。それらの大学に通う様々な知識や経験を持つ大学生と交流することで、いろいろなことが学べると思います。

これらのことを踏まえ、私は小学生と大学生が触れ合う機会を設けることを提案します。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 企画振興部長。

○企画振興部長（疋田元伯さん） 小学生と大学生が触れあう機会を設けることについて、貴重なご提言をいただき、ありがとうございます。

角田さんがおっしゃるように、市内には四つの大学が立地しております。それぞれの大学には特色ある学部があるため、そこに通っている大学生と交流することで、小学生の皆さんの興味・関心を深めるとともに、将来について視野が広がるものと考えております。特にICT機器の使い方などの提案につきましては、本当に素晴らしいと思っております。

これは小学生だけではなくて、大学生も異世代と交流することで、違う視点で物事を捉えたり新たな発見をしたり、よい影響があると考えております。

具体的な異世代の交流を行う方法としましては、現在も実施をされておりますが、休日などに大学生が小学生を対象として実施している講座を紹介し、参加を呼びかけております。また、学校で実施しているクラブ活動でスポーツや音楽などの指導に来ていただくことや、総合的な学習の時間や人権学習、国際理解学習などに大学生をゲストティーチャーとして招き、話をお聞きすることが考えられます。

角田さんからの貴重なご提案を踏まえまして、これからも異世代交流の機会を増やすために、今後も様々な形で小学生と大学生が触れ合う機会を創出していきたいと考えております。

○第2グループ議長（黒木優衣さん） 角田さん。

[23番（角田果巴さん）登壇]

○23番（角田果巴さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（黒木優衣さん） しばらくの間、休憩します。

皆さん、お疲れさまでした。

○議会事務局長（杉本弘之さん） お知らせします。休憩時間は10分程度といたします。

午前11時01分休憩

午前11時10分再開

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆さん、こんにちは。

本日は、第13回子ども議会にお越しいただきまして、ありがとうございます。



ご来場の皆様方に何点かお願いをいたします。子ども議会取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承いただきますようお願いいたします。また、保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

なお、議場内は飲食禁止とさせていただきます。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

最後に、質問が終了したグループから解散とさせていただきます。お帰りの際は、お忘れ物のないようご注意をください。よろしくお願いをいたします。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 議長を交代しました。金城小学校、角田果巴です。よろしくお願いをいたします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第3グループの順番は、3番桐畑凌斗さん、4番乾礼佳さん、7番野崎輝香さん、10番藤田淳暉さん、13番中西温大さん、16番寺田蒼さん、21番小林怜未さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

3番桐畑凌斗さん。桐畑さん。

〔3番（桐畑凌斗さん）登壇、資料提示〕

○3番（桐畑凌斗さん） 「公園をみんなが安心して、楽しめる所にしてほしい」

僕は、小さい子からお年寄りの人まで楽しめる公園づくりを進めてほしいことを主張します。

こちらをご覧ください。今住んでいる家の近くにある公園は、レインボータウン公園といます。この公園はそこそこの広さでよいのですが、幾つか気になることがあります。

まず、木や日よけになる屋根がないことです。特に夏は影が少なく、幼児からお年寄りまでの人が来るこの公園では熱中症のリスクが高くなり、みんなが公園で遊べなくなります。また、ベンチも一つだけで2、3人ほどしか座れず、公園本来の憩いまたは遊びを楽しむための場所とまではいかない状態です。

そこで、公園がすてきな公園になるように次のことを提案します。

こちらは彦根市内のほかの公園です。

一つ目は、影が少ないので、木を植えることです。植えることによって影ができ、休憩しながら遊べる場所になると思います。そして、緑も増えて、目にも優しいです。

二つ目は、ベンチをもう少し置くことです。ベンチを木の下に置けば、影で休むときに座って休憩できます。

三つ目は、公園横にあるごみステーションの後ろのブロックの高さを高くすることです。フェンスがあることによってブロックに登れてしまい、子どもがごみステーションの上に乗って危ないです。本来登る場所ではないのに登ってしまう子がいるため、安全のためにブロックの高さを高くして登れなくするなどの対策が必要だと考えます。

これらのことが実現したら、子どもだけでなく、幅広い年齢の人たちが安心して楽しむ

る公園になると思います。ぜひともお願いします。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 歴史まちづくり部長。

○歴史まちづくり部長（久保達彦さん） 桐畑さんの「公園をみんなが安心して、楽しめる所にしてほしい」についてお答えをします。

レインボータウン松原公園は団地の中にあり、主に団地の方が利用される公園で、桐畑さんの一つ目の提案である影が少ないので木を植えることにつきましては、公園の日陰の確保やまちの景観や環境がよくなることから、非常にいい提案だと認識しています。

しかしながら、木を植えると、枝を切ったり落ち葉の掃除をしたりなど、しっかりと管理をしていくことが必要になります。このような管理は市と自治会で役割を決めて行っておりまして、お住まいの自治会のご協力が必要となってきますので、自治会と相談したいと思います。そこでしっかりと管理ができることが確認できましたら、市としてもぜひ木を植えることを考えていきたいと思います。

次に、二つ目の提案でありますベンチをもう少し置くことですが、団地内にある公園のベンチの数は通常1基から3基です。しかしながら、利用される程度にもよりますので、これについてもお住まいの自治会と相談して、増やすことを検討したいと思います。

最後に、三つ目の提案であります公園横にあるごみステーションの後ろのブロックを高くすることですが、ごみ集積所のブロック塀は、ごみ集積所に出されたごみや缶・ペットボトルなどが風で公園や道路に飛び散らないようにするためと、公園を利用される方がごみ集積所に近寄らないようにするために設置しているものです。

桐畑さんのご提案していただいています子どもがごみステーションの上に乗って危ないのでブロックの高さを高くすることも一つの案だと思いますが、ブロックを高くすると地震などで倒れて大きな事故につながる危険がありますことから、今のブロックの高さを高くすることはできません。

しかしながら、桐畑さんのご指摘のとおり、ブロック塀やごみステーションの上に登る行為は大変危険ですので、上に登らないように注意を促す看板をブロック塀やフェンスに設置するなど、ごみ集積所を所有・管理しておられる自治会の皆さんと相談しながら、今後対策を考えていきたいと思いますので、ご理解をお願いします。

桐畑さんが思われているとおり、安心して楽しめる公園となるように、今後も利用されている皆さんと共に努力していきたいと思います。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 桐畑さん。

〔3番（桐畑凌斗さん）登壇〕

○3番（桐畑凌斗さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（角田果巴さん） 4番乾礼佳さん。乾さん。

〔4番（乾 礼佳さん）登壇、資料提示〕

○4番（乾 礼佳さん） 「自転車専用道路の整備について」

私は、旭森学区周辺でも自転車専用道路の整備を提案します。

この写真を見てください。私が彦根市役所前を通ったときに、このように自転車専用道路が整備されていきました。しかし、私の通っている学校の周辺では整備があまり進んでいないように感じます。

自転車専用道路を整備してほしい理由は二つあります。

一つ目は、登下校の際、後ろから走ってくる自転車に気づかず、びっくりすることがありました。また、低学年の児童は後ろが不注意になりやすいです。そのため、危ないからです。

二つ目は、聴覚に障害のある人が歩行しているとき、ベルの音に気づきにくく、接触や事故になるかもしれないからです。また、幼稚園や保育園の子どもやもっと小さい子ども、ご高齢の方でも、学校周辺の自転車専用道路の整備をすることで、歩行者と自転車を運転している人がぶつかったりする大きな事故につながりにくくなり、お互いに安心して道路を利用することができると思います。

これらのことをすることで、子どもや障害者の方に優しい彦根市になると思います。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） それでは、乾さんの「自転車専用道路の整備について」のご質問にお答えをいたします。

乾さんのご指摘のとおり、自転車が歩行者の横を通行することや後ろから来る自転車の存在が分からないことは、聴覚障害の方をはじめ、歩行者にとってもとても危険であると考えます。

乾さんもおっしゃっている彦根市役所前の道路、この通りは県道にはなるんですけども、示されているように青色の矢羽根線と自転車のマークが車道の端に設置されていて、これは自転車専用道路というものではないのですけれども、車両である自転車の車道通行を促して少しでも歩道の安全性を高めるために、滋賀県が試験的に実施されたものでございます。

乾さんがおっしゃっている彦根市役所前の道路、この通りは県道にはなるんですけども、示されているように青色の矢羽根線と自転車のマークが車道の端に設置されていて、これは自転車専用道路というものではないのですけれども、車両である自転車の車道通行を促して少しでも歩道の安全性を高めるために、滋賀県が試験的に実施されたものでございます。

自転車と歩行者の両方が安全に通行するためには、車道と歩道および自転車道それぞれが分離した通行帯にすることが最も望ましいと考えています。そうするためには相当広い幅の道路が必要になってきます。

このことから、言われております旭森小学校周辺の道路をはじめ、自転車道を整備することは非常に難しいので、市では、駅周辺などの特に自転車の利用者が多い場所について、

それらを中心にして歩道の幅をできるだけ広く拡幅して、それが拡幅できた場所は自転車・歩行者道、つまり、歩道の中に自転車が通れるような整備を行っているという状況です。その広い歩道の中にさらに青い破線を引いて、ここは自転車が通ってください、ここは歩道を歩行者が通ってくださいという形の区分ができる整備を進めているという状況です。自転車の幅が確保できる場所については、また、歩道と車道の間にある程度の、2メートルぐらいの幅があるところは、歩道と車道、自転車の通行帯という形での整備を実施している場所もございます。

このように歩道と区分した自転車通行帯の設置を行うなど、これは今できる範囲の中で、少しずつでもありますけれども、歩行者と自転車通行の安全性を高めていくような整備を順次行っているという状況です。

こういった整備というものは確かに必要だと思います。ただ、このような整備だけでなく、自転車や自動車などを利用される方が交通マナーやルールをしっかり守っていただき、歩行者に対して思いやりを持って運転をしていただくということも大変大切なことだと思っております。そのために、市の方では、警察の方などと連携をしまして、さらに交通安全の啓発をさらに強めていきたいと考えております。

以上でございます。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 乾さん。

〔4番（乾 礼佳さん）登壇〕

○4番（乾 礼佳さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（角田果巴さん） 7番野崎輝香さん。野崎さん。

〔7番（野崎輝香さん）登壇〕

○7番（野崎輝香さん） 「通院医りょう費の助成」

私は、通院医療費の助成の対象を中学生までにすることを提案します。

なぜなら、彦根市では子どもの通院医療費の助成は小学3年生までとなっていますが、彦根市の周りの長浜市、愛荘町、多賀町では、中学3年生まで通院医療費の助成があるからです。

実際に私の周りでも、小学4年生になって通院医療費の助成がなくなってしまって、通院費が大きな負担になっているという話を聞いたことがあります。

そして、通院費の助成が実現すると、子どもの通院費を抑えることができるので、若い世代や働き手の世代が住みやすい彦根市にすることができます。少子高齢化の中で、若い世代が安心して子育てできるまちづくりは、これからの彦根市をみんなが住みたいと思えるまちにするために大切なことだと思います。

しかし、一度中学3年生までの通院医療費の助成を行ってしまうと、途中で予算が足りなくなるといったトラブルが起きてしまったときに後戻りができなくなってしまいます。それでも、通院医療費の助成は今後の彦根市のために重要なことだと思います。

なので、私は通院医療費の助成の対象を中学生までにすることを提案します。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） それでは、野崎さんの子どもの「通院医りょう費の助成」について、お答えさせていただきます。

本市では、現在、小学3年生までの通院医療費の助成を行っておりますが、野崎さんのご質問にもありますように、周りの市や町、県内の多くの市や町では中学3年生までの通院医療費の助成を行い始めているのに比べますと、本市は大変後れていると認識しているところであります。

子育て世代にとっていろいろとお金の負担がある中で、通院医療費の負担がなくなると、生活にゆとりができ、若い世代や働き手の世代がとてもしみやすいまちになります。そのため、野崎さんの通院医療費の助成に対する提案は大変すばらしいものだと考えております。

本市におきましても、若い世代が出て行かず、ほかから移り住みたくなる都市にすることを目指しているため、そのためには子育て世帯に対する支援が大事だと考えており、中学3年生までの子どもの通院医療費の助成を行うことはとても重要なことだと考えております。

しかしながら、現在、本市に在籍する小学校4年生から中学3年生までの約6,000人の児童・生徒の皆さんに対して通院医療費を無料とするためには、毎年大きなお金が必要となります。そのため、一度に無料にすることはとても厳しい状況ではありますが、まずは、小学6年生までの通院医療費の助成を一刻も早くできますように、現在、取組を始めているところであります。そして、小学校6年生までの助成が実施できました後に、中学3年生までの通院医療費の助成が実施できるよう、市役所のいろいろな仕事について知恵を絞って工夫し、見直し、必要なお金を確保していきたいと考えております。

彦根市といたしましては、野崎さんが提案されている通院医療費の助成の対象を中学まで広げていくことを少しでも早くできるよう、一生懸命取り組み、野崎さん言われるように、これからの彦根市をみんなが住みたいと思えるまちにしていきたいと考えております。

以上でございます。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 野崎さん。

〔7番（野崎輝香さん）登壇〕

○7番（野崎輝香さん） 通院医療費の助成は大体どれぐらいで実施できますでしょうか。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） 今も答弁させていただきましたが、この件に関しましては市長の公約でもありますし、滋賀県には彦根市も入れて13市と6町がございます。その中で、今、彦根市が一番最下位ということでもありますので、このことに関しては彦根市役所全体で重要課題と認識しておりますので、できる限り早くご期待に沿えるように努力して

いくということでございます。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 野崎さん。

〔7番（野崎輝香さん）登壇〕

○7番（野崎輝香さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（角田果巴さん） 10番藤田淳暉さん。藤田さん。

〔10番（藤田淳暉さん）登壇〕

○10番（藤田淳暉さん） 「学習者用端末の導入による学習機の最善化利用について」

僕は、小学校の学習機を広々と使いたいときに、教科書やノートと一緒に学習者用端末が同時に使える学習機の最善化利用について提案します。

学校では学習者用端末が導入され、授業で平均して1日2から4時間使っています。そのときノートや教科書を同時に使うこともあり、学習者用端末が置きづらくなっています。

国語や社会の教科書が以前に比べて大きくなっているような気がします。調べ学習のときに学習者用端末を教科書と同時に使うとなると、教科書やノートの置き場所に困り、机がとても小さく感じます。また、私と同じように、学習者用端末を使うことで机の大きさが狭いと感じている人の話を聞いています。

そこで、机の横に折り畳み式の補助台を設置してもらうことを提案します。そうすることで、使いたいときに、教科書、ノートと併せて学習者用端末を有効に活用することができます。折り畳み式にすることで、教室が小さく感じることもなくなると思います。

だから、小学校の学習機が広々と使えるように、折り畳み式の補充台を設置することを提案します。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 教育部長。

○教育部長（広瀬清隆さん） 藤田さんがふだんの授業で学習者用端末、タブレットを1日2時間から4時間積極的に利用されていることは素晴らしいことです。また、学習を進める中で、学習がさらにしやすくなる提案をいただき、ありがとうございます。

2年前から小・中学校の皆さんにタブレットを準備し、どの学校でもICT機器がどんどん使われるようになってきました。特に今年度は、新しくムーブノートというソフトも入り、全員の意見がすぐにテレビ画面に提示され、友達同士で意見や考えを交流することで、学びを深めることができるようになりました。一方で、タブレットを教科書やノートと同時に使用すると机が小さいという課題も見えてきました。

現在、彦根市内の小・中学校では、大きさが奥行き40センチメートル、幅60センチメートルの机を使っています。学習機がよりうまく使えるよう、モデル校において机の使い方についていろいろと考えてきましたが、机の奥行き、幅ともに大きくすると、歩く場所が狭くなったり、低学年の友達にとっては持ち運びがしにくくなったりしています。また、藤田さんから提案された折り畳み式の補助台等も考えてみましたが、教室が狭くなるというご意見もいただきました。

そこで、新しい取組として、現在のコンピューター教室のパソコンの台数を減らし、グループ活動を快適に進めることができるアクティブラーニング教室をこれから小学校で作っていく予定です。このアクティブラーニング教室では、教室よりも広い机を取り入れ、教室内に電子黒板を導入するなど、より皆さんが学びやすい環境の教室で学習もできるようになります。

今後も皆さんが気持ちよく学習を進めていけるように、学習環境を整えていきたいと考えています。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 藤田さん。

〔10番（藤田淳暉さん）登壇〕

○10番（藤田淳暉さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（角田果巴さん） 13番中西温大さん。中西さん。

〔13番（中西温大さん）登壇〕

○13番（中西温大さん） 「給食費の無償化をできるだけ早く実現してほしい」

僕は、給食費の無償化をできるだけ早く実現してほしいと主張します。

僕は毎日の給食がとても楽しみです。しかし、給食費を毎月4,000円ちよつとも払っていることを聞いて、とても驚きました。この4,000円というのは、今の社会情勢ではなかなか厳しい家もあることをニュースで聞くこともあります。

そこで、給食費の無償化をできるだけ早く実現することで、次のような点がよくなると思います。

まず、何よりも家庭の負担が減ることです。こうすることで、例えばそのお金で勉強で使う本や文房具、スポーツを頑張るための道具に充てることができます。

和田市長は公約で給食費の無償化を挙げられていることを聞きました。ぜひとも早く実現してもらえるとうれしいです。

もちろん、自分たちも頑張るつもりです。税金で給食費を無償化にしてもらった分、自分たちも勉強やスポーツを頑張って、将来、市の役に立てるような人になっていきたいです。ぜひとも実現をお願いします。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 皆さんが学校で食べている給食は、健康のことを第一に考え、米や野菜、肉、魚など多くの材料を使って調理し、栄養バランスの取れた食事を提供しています。そして、給食に使われる材料については、給食費として皆さんに負担していただいています。

中西さんのおっしゃるとおり、月々の給食費の負担が減ることで、その分、皆さんの勉強やスポーツに必要な費用に充てるのが期待できるのではないかと思います。

学校給食費を無償化するためには、これまで皆さんで負担していただいた給食費を市が負担することになります。しかし、市では、教育や医療、道路整備、消防、ごみ収集など、

皆さんの生活をよりよくするため多くの予算を必要としており、市の財源、市が使えるお金には限りがあることから、給食費を無償化するには、どのようにその財源を準備するかが問題になります。

現在、これを解決するため、彦根市全体で知恵を絞り工夫をして新たな収入を得る方法を考え、事業を見直して、その分を給食の費用に充てられるように様々な取組をしているところです。学校給食費の無償化に対する皆さんの期待も大きいことから、少しでも早く実現できるよう努力していきますので、ぜひ皆さんも勉強やスポーツを頑張ってくださいと思います。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 中西さん。

〔13番（中西温大さん）登壇〕

○13番（中西温大さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（角田果巴さん） 16番寺田蒼さん。寺田さん。

〔16番（寺田 蒼さん）登壇〕

○16番（寺田 蒼さん） 「彦根をもっといい観光地にするために」

僕は、彦根をもっと有名な観光地にすることを提案します。

彦根には、彦根城や琵琶湖というすばらしいものがあります。今でも観光客はたくさん来ていますが、もっと注目されてもいいほど彦根はいい場所です。琵琶湖を湘南のように人気のある観光地にしたいです。海のように波がないのでサーフィンなどはできませんが、湖ならではのスポーツ、ヨットやカヌーなどを体験できたり、今は何もなくて寂しい湖岸沿いでキャンプやグランピングなど、1日では足りないくらい楽しむことができるようにしたいです。

そのために、僕は、三つ提案します。

一つ目は、彦根城や琵琶湖でできることが見られるポスターを作ることです。例えば、カヌーをしている様子などを写真にしてポスターにして、世界中の人に届けられるといいです。

二つ目は、彦根に来てくれた人たちに、彦根に来てどうだったか、また彦根に来たいかなどのアンケートを取ります。携帯電話などで気軽にネットで公表することによって、彦根はこんなにいい観光地なのかと世界中の人に知ってもらうことができます。

三つ目は、ひこにゃんと触れ合える場所をつくることです。今でも触れあい場所がありますが、彦根城など一部のところしかありません。そこで、彦根にある店などにひこにゃんがたまに行き、ひこにゃんと触れ合えることで彦根をアピールできます。

この僕の三つの提案で彦根をもっと有名な観光地にできると 생각합니다。僕は彦根のことをもっと知ってもらいたいです。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） 寺田さんからの「彦根をもっといい観光地にするために」



というご提案につきましてお答えいたします。

まず、一つ目のポスターの作成につきましては、多くの人に彦根市の魅力を知ってもらいきっかけとして重要なものだと思っておりますので、ポスターはもちろん、ネット上でのSNSや、そのほか、名古屋駅などで画像や動画が流せる仕組みを使うなど、いろいろな方法で日本全国だけでなく外国の方までPRをしているところであります。

遠く離れた場所で彦根のことを知っていただくためには、寺田さんのご提案のとおり、彦根に何があるのか、彦根で何ができるのかをぱっと見て分かる仕掛けが必要であると考えておりますので、ポスターに限らず、これからも工夫して取り組んでいきたいと考えております。

二つ目のアンケートを取り、その結果を手軽に見ていただくということについては、彦根を訪れる皆さんが彦根のどこが好きなのかを知るためにとっても大切なことだと思っており、観光の経済効果測定調査や観光客満足度調査などを行っております。ご提案いただきました手軽に見ていただくことはできませんが、このような調査の結果も踏まえて、先ほどお答えいたしましたとおり、ネットやSNSなどのPRを行って、世界中の方々に彦根を知ってもらう努力をしております。

三つ目のひこにゃんに関するご提案でございますが、現在、ひこにゃんは毎日決まった時間帯に彦根城で登場しております。加えて、これまで新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっていたイベントが最近ではどんどん開催されるようになったことで、出陣する機会が増えております。特定のお店というわけではありませんが、市内でもたくさんの方が集まる様々なイベントなどで彦根のアピールをしておりますので、見かけたら、ぜひひこにゃんを応援していただければと思います。

どの提案も彦根のことをもっと知ってもらいたいという思いが込められており、彦根に対する深い愛情を持っていただいていることを感謝申し上げます。

以上でございます。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 寺田さん。

〔16番（寺田 蒼さん）登壇〕

○16番（寺田 蒼さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（角田果巴さん） 21番小林怜未さん。小林さん。

〔21番（小林怜未さん）登壇、資料提示〕

○21番（小林怜未さん） 「細い道等にも外灯やカーブミラーを増やしてほしい」

私は、細い道などに外灯やカーブミラーを増やすことを提案します。

なぜなら、外灯がないと、夜歩いているときに、細い道などでは前から来る人などが見えないので危ないからです。また、以前自転車で出かけたとき、壁が邪魔で見えにくくなっている住宅地のT字路がありました。カーブミラーもなかったので、曲がろうとしたところ、車との事故が起きそうでびっくりしたことがあったので、必要だなと思いました。

外灯を増やすことで、LEDやソーラーパネルなどは光熱費の削減になり、交通事故の減少や犯罪の抑制になり、安心・安全のまちになるという効果があります。

彦根市にはベルロードという道があり、大きなベルの形をした外灯が印象的です。また、時刻を知らせる音楽が流れます。そのような楽しい道にするために、歩けば色とりどりのライトがついたり、いろいろな形の外灯が光ったりする明かりで工夫した道もいいと思いました。

このように、私は、細い道等にも外灯やカーブミラーを増やし、安心・安全で明るく楽しい彦根のまちにしていきたいです。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） 小林さんの「細い道等にも外灯やカーブミラーを増やしてほしい」という質問についてお答えをいたします。

まず初めに、外灯の設置につきまして、市では、夜間の道路交通の安全対策として、主要な交差点、また、横断歩道などがある箇所に道路照明灯というものを設置しております。

また、小林さんのご質問の中にもありますベルロードなどでは、これは商店街の皆様が連続的に照明灯を設置されておられ、明るくするだけでなく、景観の向上にもつながっております。

そのほか、住宅地では、それぞれの自治会が防犯を重視した外灯、つまり防犯灯と呼ばれておりますが、これを市の補助を受けられて必要な箇所に設置されています。

このように、場所や目的に応じて、それぞれの団体が照明灯や防犯灯などの外灯を設置しています。

小林さんからご指摘をいただいている細い道などの生活道路につきましては、夜間の安全のため、それぞれの自治会様において市の補助制度などを活用され、防犯灯を設置していただければと考えております。

なお、こうした照明灯や防犯灯は、最近では言われるようにLED化されたものが主流でありますので、小林さんのご提案のとおり、光熱費の削減にもなっております。

次に、カーブミラーについてお答えをいたします。

カーブミラーは、見通しが悪く、目視による安全確認がしにくい交差点などで、自動車が安全に通行するための補助施設として設置をしております。

小林さんのご提案のとおり、細い道などにカーブミラーを設置することで見やすくはなりますが、このカーブミラー、この鏡には必ず死角、見えない部分というのが生じます。そのため、カーブミラーに頼り過ぎて事故が起こることもございますので、通行される際には極力スピードを落としていただき、直接ご自分の目、目視で安全確認をしていただくことが重要であると考えており、必要以上には設置しておりません。

このカーブミラーにつきましては、市民の皆様から毎年多くの設置要望をいただいております。その都度、市の職員が現場を確認しまして、交差点の形状であったり見通しの状況、交通量を確認し、カーブミラーに頼らないと安全確認ができない場所に設置をしてい

ます。

小林さんをはじめ皆様が交差点を通られる場合には、徐行なり一旦停止、立ち止まっていただいて、カーブミラーだけに頼らず、ご自分の目でしっかりと左右の安全確認をされますように、ここで改めてお願いをしたいと思います。

以上でございます。

○第3グループ議長（角田果巴さん） 小林さん。

〔21番（小林怜未さん）登壇〕

○21番（小林怜未さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（角田果巴さん） 以上で全ての質問を終了します。

これで第13回彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午前11時53分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	小	林	怜	未
第2グループ議長	黒	木	優	衣
第3グループ議長	角	田	果	巴
議	員	古	川	ほなみ
議	員	宮	川	孝太
議	員	桐	畑	凌斗
議	員	乾		礼佳
議	員	江	畑	博翔